

5 各部・各学年・事務部の努力目標

(1) 教務部

- ① 職員朝会と職員会議の効率的な運営に努める。
- ② 各部・学年会との連携を密にし、行事の精選に努め、年間実授業時数の確保及び調整に努める。
- ③ 教育課程の充実に努める。
- ④ 総合的な探究の時間がスムーズに行えるよう体制を整える。
- ⑤ 内規の整備を図る。
- ⑥ 各種委員会の活性化に努める。
- ⑦ 教育関係資料・表簿の整理・点検・保管の徹底を図る。
- ⑧ P T Aとの連携を密にして、教育活動の充実に努める。
- ⑨ 高大連携の取り組みを推進する。
- ⑩ 追認考查対象者全員に、追認考查を受験させるよう努める。
- ⑪ 学校説明会の活性化につとめ、生徒募集に繋げる。

(2) 生徒指導部

- ① 各学年と連携し、自己指導能力を育て、望ましい学習環境を整えることで、生徒の自己実現につなげる。
- ② 規範意識を高め、凡事徹底の心を育て、和を大切にする生徒を育てる。
- ③ 人権尊重の視点に立つ、いじめや中傷のない安全・安心な学校作りに努める。
- ④ 命の教育を重視し、事件・事故から、身を守る予防教育の充実に努める。
- ⑤ 各行事での企画、運営等を生徒が中心となって行い、学校のリーダー及び自主性を育てる。

(3) 進路指導部

- ① 生徒の日常的な学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図り、学力向上対策に努める。
- ② スタディサポート学習状況リサーチや進路希望調査のデータを活用し、生徒が自らの進路を主体的に選択・決定できるようにする。
- ③ 各部・各学年・各教科との連携を密にし、段階的・系統的に進路指導が行われるようにする。
- ④ 生徒・保護者への進路情報の提供や啓発活動に努める。
- ⑤ 大学入試等の調査研究・情報提供に努める。

(4) 情報・図書視聴覚部

- ① 情報関係
 - ア 校内LAN環境の整備と安全性の確保及び運用、メンテナンスの充実に努める。
 - イ 校務支援システムの円滑な運用とサポートを図る。
 - ウ 学校Webページを活用し、学校PR、情報発信に努める。
- ② 図書関係
 - ア 図書資料の充実と図書館利用の促進を図る。
 - イ 各教科・各学年・各部と連携を密にし、学習指導のサポートを図る。
 - ウ 図書委員会を活動させ、展示および広報活動を充実させる。
 - エ 館内の整理と美化及びマナー向上に努める。
- ③ 視聴覚関係
 - ア 視聴覚教室及び機器の利用、整備充実に努める。
 - イ 校内放送に関する規定の周知徹底を図る。

(5) 環境保健部

【環境】

- ① 地震・津波・防災体制を確立し施設設備の安全保持に努める。
- ② 学校環境の美化、備品、設備の充実に努める。
- ③ 校内緑化を推進し、美化作業を計画的に進める。
- ④ 清掃、整理、整頓の習慣化を実践できる生徒の育成に努める。
- ⑤ 公共物を大切にすることを育成する。

【保健】

- ① 学校保健の組織的活動を活性化させ、健康課題の解決に組織的に取り組む。
- ② 健康教育の充実に図り、基本的生活習慣が実践できる生徒の育成に努める。
- ③ 保健室を学校保健センターとして位置づけ、保健室機能の充実に努める。
- ④ 健康課題の解決に向けて、職員・保護者・専門機関等との連携を深め、保健指導・健康相談の充実に努める。

【教育相談】

- ① 教育相談活動の充実に図り、生徒の実態や問題の早期発見に努める。
- ② ホームルーム担任や教科担任、保健室や生徒指導部等との密接な連携を基盤とし、学校全体で共有を図りながら生徒個々の問題解決と学校生活への適応への支援に努める。
- ③ 特別支援コーディネーターとして、外部機関との連携の充実に図る。

(6) 1 学年

① 基本的生活習慣の確立

- ア. 挨拶、丁寧な言葉遣いを心がけ、教師生徒間、生徒どうしの良好な人間関係を育むことができる。
- イ. 遅刻・無届欠課・無届欠席を安易に行わず、学校生活に愛着を持つことができる。
- ウ. 身なりと制服の正しい着用を習慣化できる。
- エ. 教室環境の整理整頓を心がけ、清掃活動に取り組むことができる。

② 学習の充実

- ア. 授業参加・復習の学習サイクルを習慣化し、自発的に学ぶ姿勢を持つことができる。
- イ. 課題等の提出に自律して取り組むことができる。

③ 進路指導の充実

- ア. 進路に対し興味・関心を持ち、目標を早期に設定できる。
- イ. 模試や検定試験等に興味を持ち、受験することができる。

(7) 2 学年

① 基本的生活習慣の確立

- ア. コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係を育むことができる。
- イ. 遅刻・無届欠課・無届欠席を改善し、自ら積極的に学校生活を送ることができる。
- ウ. 身なりと制服の正しい着用を徹底する。
- エ. 教室環境の整理整頓を心がけ、清掃活動に進んで取り組むことができる。

② 学習の充実

- ア. 予習・授業・復習の学習サイクルを習慣づけ、授業中の自発的な学びに取り組むことができる。
- イ. 家庭学習時間を確保し、計画的に学習することができる。

③ 進路指導の充実

- ア. 進路相談を活用し、目標を設定し、それに向けて具体的にに取り組むことができる。
- イ. 進路学習等を通して、将来の目標を具体化することができる。
- ウ. 模試や検定試験等に積極的に取り組むことができる。

(8) 3 学年

① 基本的な生活習慣の確立

- ア. 良好な人間関係の構築を目指し、社会に適応する基礎力を身につけることができる。
- イ. 遅刻・無届欠課・無届欠席を自ら改善し、自立・自律して日々を過ごすことができる。
- ウ. 身なりと制服の正しい着用を習慣化できる。
- エ. 教室環境の整理整頓を心がけ、進んで清掃活動に取り組むことができる。

② 学習の充実

- ア. 予習・授業・復習の学習サイクルを定着し、自発的に学ぶ姿勢を持ち続けることができる。
- イ. 家庭学習時間を確保し、計画的に学習することができる。

③ 進路指導の充実

- ア. 進路目標と自己実現をつなげる手立てを考えることができる。
- イ. 担任や進路指導部との進路相談を活用し、希望進路の実現を目指し努力することができる。
- ウ. 模試や検定試験等に積極的に取り組むことができる。

(9) 事務部

- ① 学校施設の安全管理及び教育環境の整備に努める。
- ② 法令・規則に則った適正な事務処理に努める。
- ③ 予算の効率的・効果的な執行に努める。
- ④ ノー残業デーの設定（毎週水曜日）及び時間外勤務の削減を図る。

6 各コースの努力目標

(1) 健康科学コース

- ① 競技スポーツ、生涯スポーツに関する専門的な能力の育成を図る。
- ② 学校強化指定種目（男女バレー、女子バスケット、サッカー、野球）の強化と実績の向上を図り、学校活性化に貢献する。
- ③ 健康についての基本的な知識を理解し、日常生活に役立てる。
- ④ 早期進路決定に向けて支援を行う。

(2) 文理コース

- ① 基礎的・基本的な学力を身に付け、定着を図る。
- ② 進学相談会等を通して上級学校への理解を深め、進路実現に向かう意欲を育成する。
- ③ キャリア教育を通じて望ましい勤労観、職業観を身につけ、個々の適性や興味関心にあった進路選択ができる能力と態度を育てる。

(3) 特別進学コース

- ① 進路目標の早期決定を促し、国公立大学や私立大学への現役合格を目指した受験体制の確立を図る。
- ② 早朝・夏期講座、模擬試験への意欲的参加を促し、指導の徹底を図る。
- ③ 模擬試験を効果的に活用するなどして、学習習慣を確立させる。

7 各教科の指導目標

(1) 国語科

- ① 国語に親しむ態度を養い、実社会に必要な国語の知識技能を身につけさせるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深められるよう、国語における基礎基本の定着を図る。
- ② 言語活動を活発化させることにより、論理的なものの見方や深く共感する力を伸ばし、伝え合う力の向上を図る。
- ③ 資料や授業関連図書を積極的に活用する態度を育み、発展的学習に繋げる。

(2) 地歴・公民科

- ① 社会に関心を持ち、課題を見だし、主体的に解決しようとする力を育てる。
- ② 郷土の自然・歴史・生活・文化の特色について理解と認識を深める。
- ③ 教科指導を通してキャリアの形成を支援し、自主性の向上を図る。

(3) 数学科

- ① 基礎基本の徹底
ア．基礎基本の徹底を図るため定期考査以外の確認テスト等の実施を行う。
イ．必要に応じてワークシート等、課題を行い、指導に努める。
- ② 分かる授業、求められる授業の実現を目指し、教科内での授業改善に向けた研修を充実させる。

(4) 理科

- ① わかりやすい授業の工夫を行う。
- ② 基礎基本の徹底的理解に努める。
- ③ 実験・実習観察を通して、科学的な探究心を高める工夫を行う。

(5) 保健体育科

体育や保健の見方・考え方を理解し、課題発見、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。

(6) 芸術科

- ① 芸術のよさや美しさについて主体的に理解する態度を養う。
- ② 意図に基づいて表現するための技能を身に付ける。
- ③ 道具類の使い方の指導と管理、活動場所における安全指導の徹底。

(7) 英語科

- ① わかる授業、参加する授業を目指し、基礎学力定着と応用力向上を図る。
- ② 検定・進学受験指導の充実を図る。
- ③ A L Tを活用し、英語で発表する態度を養う。

(8) 家庭科

- ① 生涯を見通して、家庭や地域生活を創造する力や実践力を身につける。
- ② 衛生面、安全面の指導を徹底し、生活に必要な基礎的、基本的な知識と技術を習得させる。
- ③ 郷土の生活文化の特色について理解を深める。
- ④ よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び、持続可能な社会の形成に主体的、協働的に取り組む態度を養う。

(9) 情報科

- ① モバイル機器や SNS 等のサービスを適切に活用できるよう情報モラル教育の充実を図る。
- ② 情報処理関連資格の取得を奨励し、取り組みを充実させる。